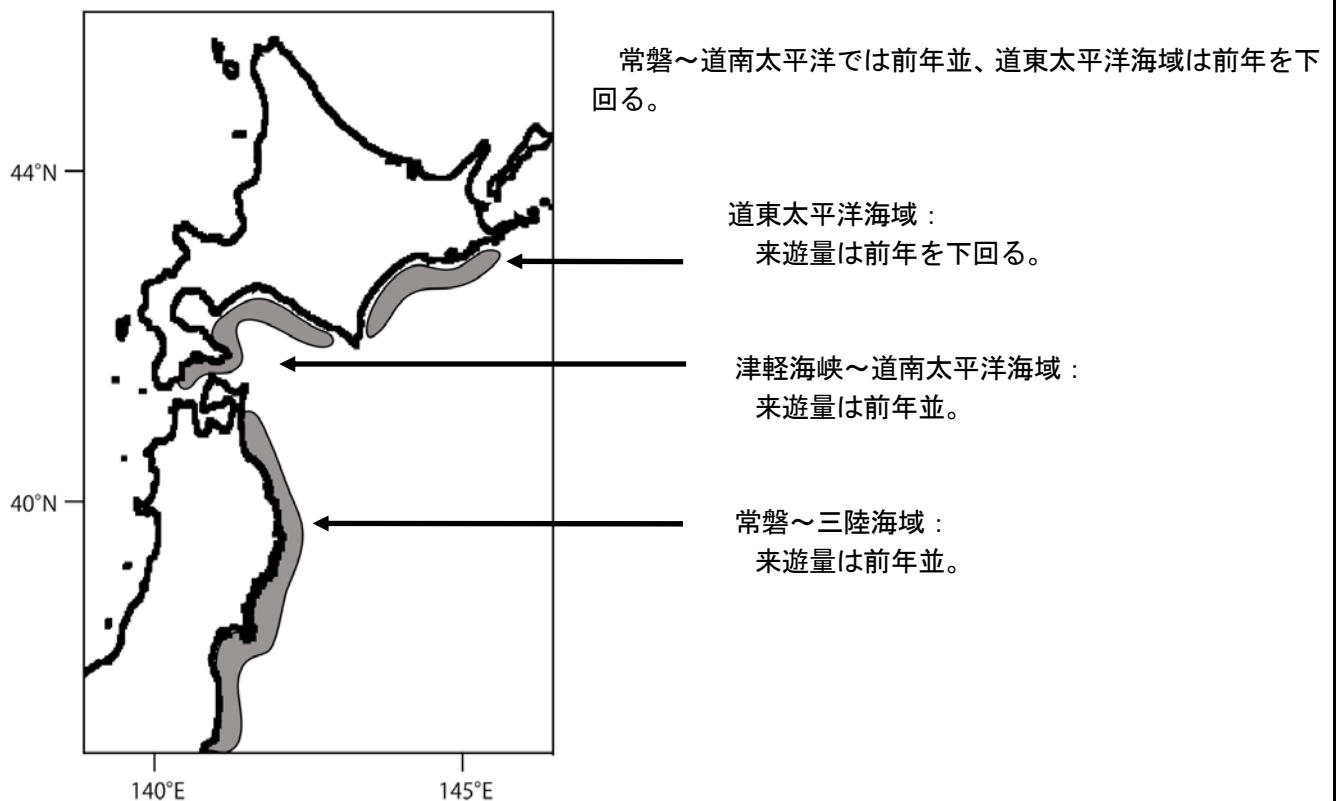


平成29年度 第1回 太平洋スルメイカ中短期漁況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し一般社団法人漁業情報サービスセンターがとりまとめた結果 －

今後の見通し(平成29年9月)のポイント



問い合わせ先

一般社団法人漁業情報サービスセンター 漁海況部
担当：篠田、渡邊
電話：03-5547-6889、ファックス：03-5547-6881
当資料のホームページ掲載先URL
<http://www.jafic.or.jp/gyokaikyo/>

国立研究開発法人水産研究・教育機構
<http://abchan.fra.go.jp/>

平成 29 年度 第 1 回 太平洋スルメイカ中短期漁況予報

今後の見通し（2017年9月）

対象魚種：スルメイカ

対象海域：常磐～三陸海域、津軽海峡～道南太平洋海域、道東太平洋海域

対象漁業：いか釣り、底びき網、定置網、まき網

対象魚群：冬季発生系群（2017年級群）

1. 常磐～三陸海域（いか釣り、底びき網、定置網、まき網）

(1) 来遊量：前年並。

(2) 漁期・漁場：対象期間を通じて漁場となる。

2. 津軽海峡～道南太平洋海域（いか釣り、定置網）

(1) 来遊量：前年並。

(2) 漁期・漁場：対象期間を通じて漁場となる。

3. 道東太平洋海域（いか釣り、底びき網）

(1) 来遊量：前年を下回る。

(2) 漁期・漁場：漁場は散発的となる。

I 予報の説明

第1回太平洋スルメイカ長期漁況予報の公表後の漁況の経過等を主要な情報として、9月におけるスルメイカの来遊量を予測すると、常磐～道南太平洋では前年並、道東太平洋では前年を下回ると予測される。各海域における見通しは以下の通りである。

1. 常磐～三陸海域

この海域の漁獲対象資源は太平洋沿岸域を北上する群を主体に、津軽海峡から来遊する日本海由来の群が含まれると考えられる。三陸周辺海域（41°N以南、143°E以西）における漁場一斉調査でのCPUE（いか釣り機1台1時間当たり漁獲尾数）は前年を上回った。

6月～7月における青森県白糠港～宮城県石巻港全体における小型いか釣り漁船による旬別漁獲量は、6月は前年並～下回って推移したものの、7月は前年並～上回って推移した。また6月～7月における青森県白糠港～宮城県石巻港全体における小型いか釣り漁船による旬別CPUEは、ほぼ前年並で推移した。

8月上旬～中旬における小型いか釣り漁船による漁況は、以下の通りであった。青森県の白糠港、泊港、三沢港、八戸港における合計漁獲量は、前年並であり（前年316.1トン、本年305.5トン）、CPUEも前年並であった（前年0.37トン、本年0.32トン）。岩手県主要7港における漁獲量は、前年を下回り（前年255.6トン、本年91トン）、CPUEも前年を下回った（前年0.47トン、本年0.31トン）。宮城県（石巻・気仙沼・女川・志津川）の小型いか釣り漁船による漁獲量は、前年を下回った（前年4トン、本年0.2トン）。青森県白糠港～宮城県石巻港全体における小型いか釣り漁船による漁獲量は前年を下回り（前年575.8トン、本年396.8トン）、CPUEは前年を下回った（前年0.31トン、本年0.24トン）。

三陸周辺海域における漁場一斉調査でのCPUEおよび6月～7月における当海域における漁況から、太平洋沿岸域を北上した群れの来遊量は前年並であった可能性がある。一方、8月における当海域の漁況から、8月は当海域よりも北の海域に魚群が移動している可能性がある。水産研究・教育機構の海況予測システム（FRA-ROMS*）によると、親潮第一分枝は前年よりも強いと予測されているが（図4）、常磐～三陸海域には津軽暖流および沖合からの北上暖水が波及することから、沖合からの魚群の来遊は持続する可能性がある。これらのことから、9月における常磐～三陸海域における来遊量は前年並となると予測される。

*国立研究開発法人水産研究・教育機構により開発され、2012年5月より運用を開始した海況予測システム
本予報には、2017年8月28日にホームページに記載されていた予測情報を使用した。

2. 津軽海峡～道南太平洋

この海域の漁獲対象資源は、太平洋沿岸を北上する群と津軽海峡から来遊する日本海由来の群が含まれると考えられる。6月の函館港に水揚げされた小型いか釣り漁船によるCPUEは前年を下回ったが、津軽海峡東口周辺海域（41°N以北、143°E以西）における漁場一斉調査でのCPUEは前年を上回った。

6月～7月における小型いか釣り漁船の漁況は、大畑港、函館港の全体で見ると、旬別漁獲量は前年を下回って推移し、CPUEも前年を下回って推移した。

8月上旬～中旬における小型いか釣り漁船による漁況は、以下の通りであった。大畑港における漁獲量は、前年を上回り(前年17.9トン、本年64.1トン)、CPUEも前年を上回った(前年0.07トン、本年0.16トン)。函館港における漁獲量は、前年を上回り(前年23.8トン、本年37.7トン)、CPUEも前年を上回った(前年0.08トン、本年0.13トン)。浦河港における漁獲量は、前年を下回り(前年38トン、本年0トン)、CPUEも前年を下回った(前年0.63トン、本年0トン)。大畑港、函館港の全体で見ると、漁獲量は前年を上回り(前年41.7トン、本年101.8トン)、CPUEも前年を上回った(前年0.08トン、本年0.15トン)。このように、津軽海峡周辺の大畑と函館における漁獲量およびCPUEは前年を上回っているものの、道南の浦河における漁獲量およびCPUEは前年を下回っている。さらに常磐～三陸海域の来遊量は前年並であることから、9月における津軽海峡～道南太平洋海域への来遊量は前年並となると予測される。

3. 道東太平洋

この海域に来遊する漁獲対象資源は、沖合域を北上する群と考えられる。漁場一斉調査における沖合域(143°E以东)でのCPUEは前年を下回った。

8月上旬～中旬における小型いか釣り漁船による漁況は、十勝港、釧路港、厚岸港、花咲港で漁獲が無く、本海域における小型いか釣り漁船による今年の初水揚げが無い状態となった。これらのことから、道東太平洋へのスルメイカの来遊量は前年を下回ると予測される。

FRA-ROMSによると、9月は沿岸の親潮第一分枝が強く、道東沿岸に暖水が波及しにくい状況となると予測されている。このため、9月も南から魚群が来遊しにくい状況が続くことから、漁場は持続せず、散発的となると予測される。

Ⅱ 各海域の漁況経過（6月～8月中旬）

2017年6月～8月中旬の宮城県以北の太平洋沿岸主要港での水揚げ量（生鮮：速報値、一部未集計）は2,005トンで、前年（2,439.1トン）を下回った。

1. 常磐～三陸海域

青森県（白糠港、泊港、三沢港、八戸港）、岩手県（主要7港）、宮城県（気仙沼港、石巻港）における2017年6月～8月中旬の合計水揚げ量は1861.9トンで、前年（2,111トン）を下回った。旬別の漁況の経過を図3-1に示す。

2. 津軽海峡～道南太平洋

大畑港、函館港、浦河港における2017年6月～8月中旬の合計水揚げ量は143.4トンで、前年（262.7トン）を下回った。旬別の漁況の経過を図3-2に示す。

3. 道東太平洋

道東4港（十勝港、釧路港、厚岸港、花咲港）における2017年6月～8月中旬の合計水揚げ量は0トンで、前年（65.4トン）を下回った。旬別の漁況の経過を図3-3に示す。

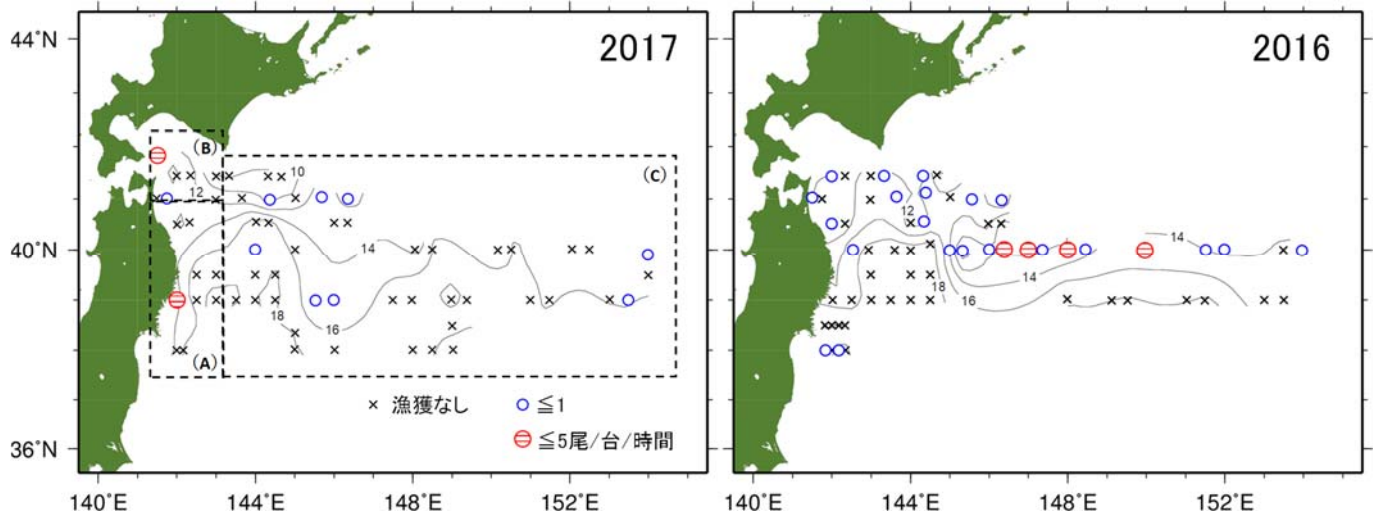


図1. 太平洋第1次漁場一斉調査の結果

2016年、2017年6月上旬～6月下旬のいか釣りによるスルメイカのCPUE（いか釣り機1台1時間当たり漁獲尾数）の分布。×は漁獲が無かった点。実線は等温線（海面水温）を示す。

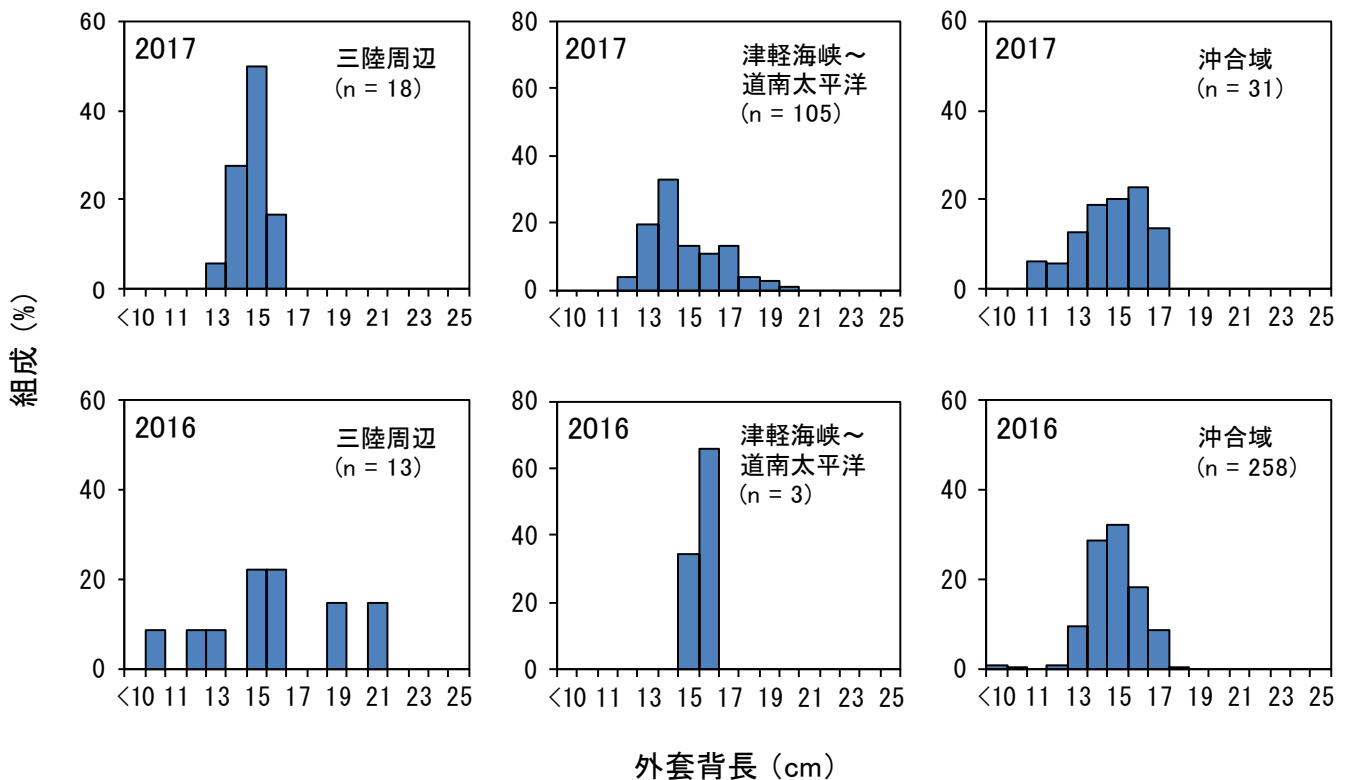


図2. 太平洋第1次漁場一斉調査（三陸周辺海域・津軽海峡～道南太平洋海域・沖合域）による外套背長組成の結果

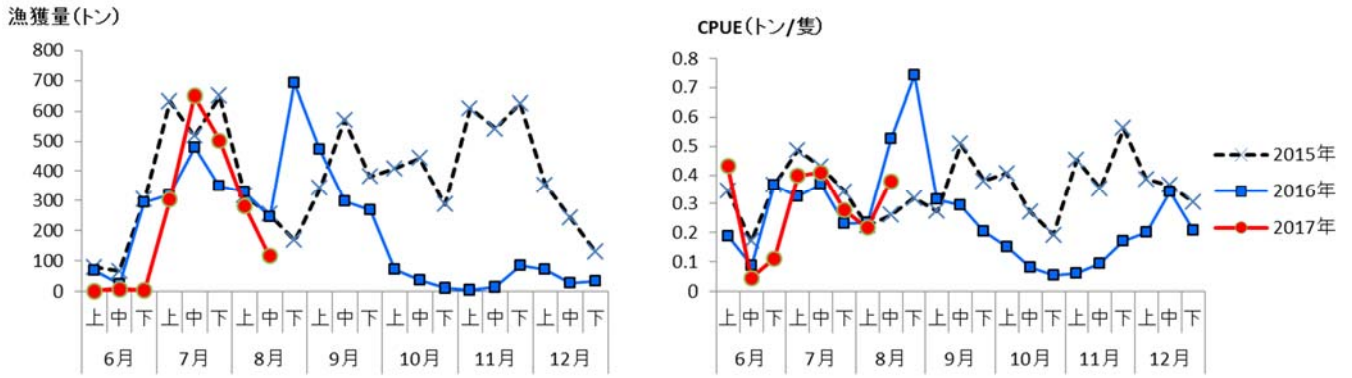


図3-1. 常磐～三陸海域の主要港におけるスルメイカの釣りによる旬別漁獲量（生鮮）とCPUE
 (CPUEの計算は、白糠港～大船渡港のデータを使用)

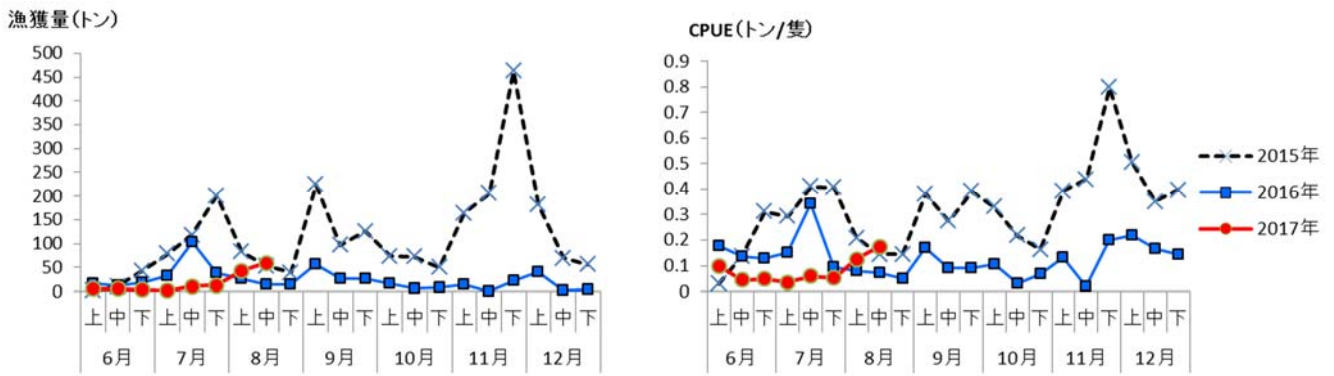


図3-2. 津軽海峡～道南太平洋の主要港におけるスルメイカの釣りによる旬別漁獲量（生鮮）とCPUE

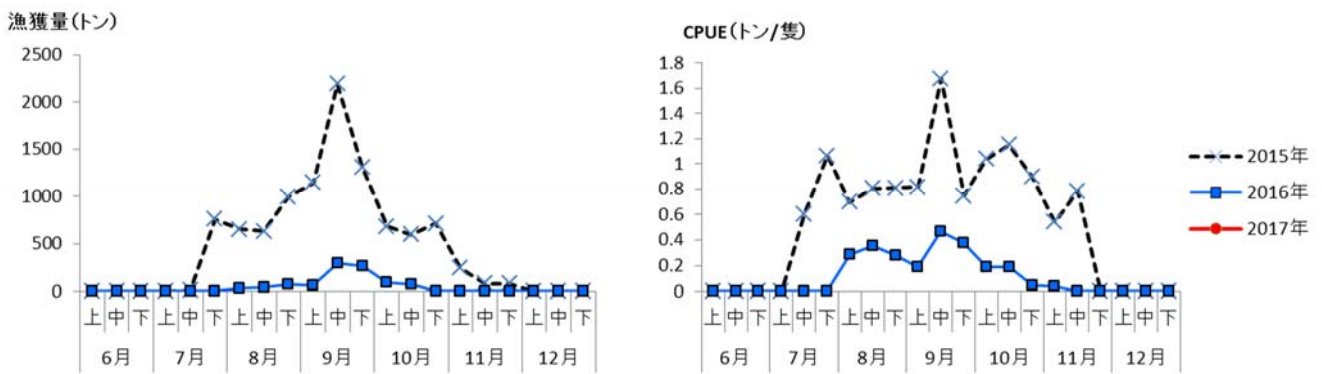


図3-3. 道東太平洋の主要港におけるスルメイカの釣りによる旬別漁獲量（生鮮）とCPUE

注：CPUEは1日1隻当たりの漁獲量

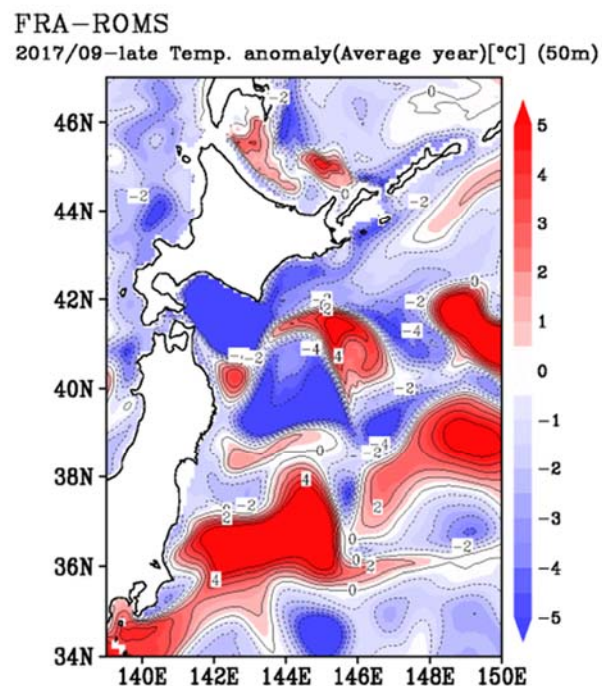
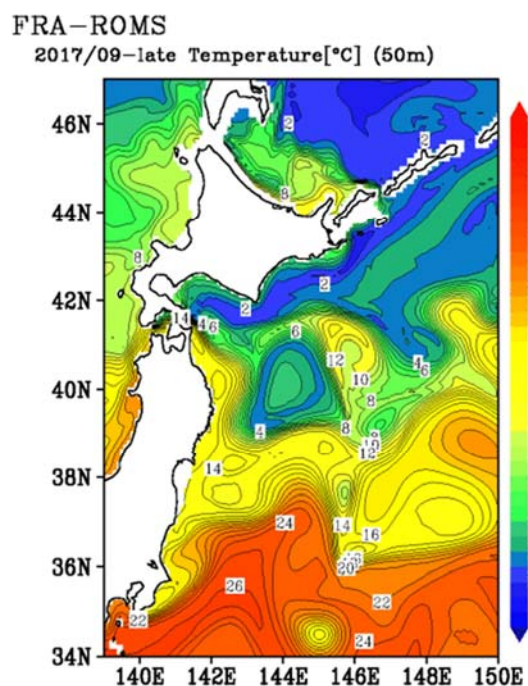
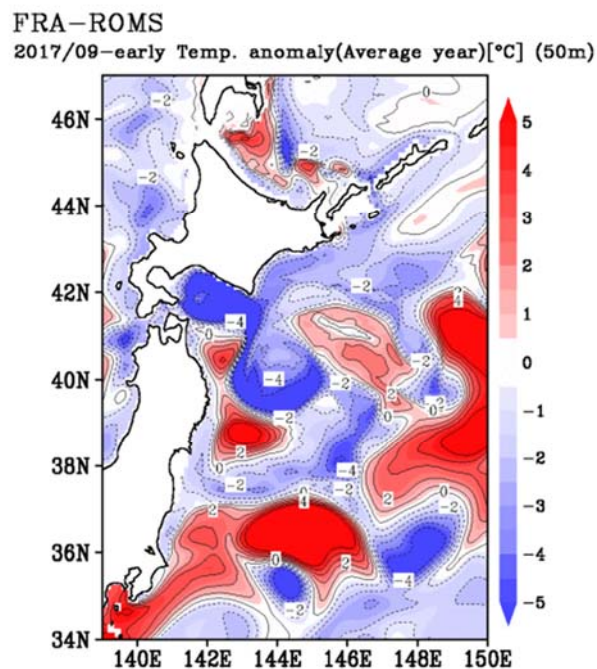
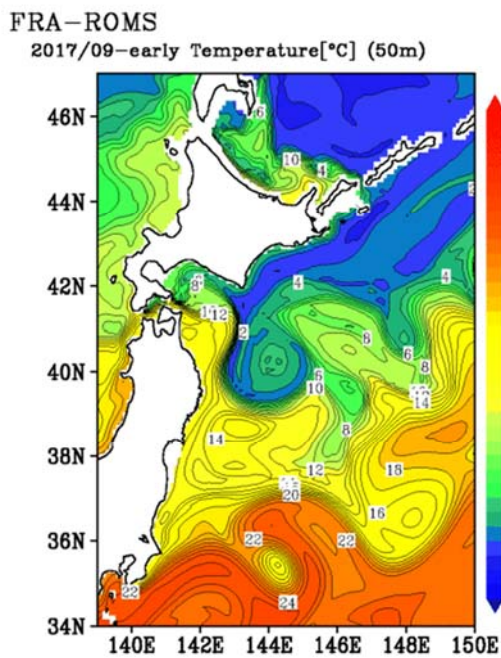


図4. 海況予測システムFRA-ROMSによる2017年9月上旬と下旬の50m深予測水温(左図)および平年差(右図)
注: 50m深はスルメイカの代表的な分布深度

参 画 機 関

| | |
|--|--|
| <p>地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 釧路水産試験場 函館水産試験場</p> <p>地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所</p> <p>岩手県水産技術センター</p> <p>宮城県水産技術総合センター</p> <p>福島県水産試験場</p> <p>茨城県水産試験場</p> <p>千葉県水産総合研究センター</p> <p>神奈川県水産技術センター</p> <p>静岡県水産技術研究所</p> | <p>三重県水産研究所</p> <p>和歌山県水産試験場</p> <p>高知県水産試験場</p> <p>国立研究開発法人 水産研究・教育機構 北海道区水産研究所 東北区水産研究所 日本海区水産研究所</p> <p>(取りまとめ機関) 一般社団法人 漁業情報サービスセンター</p> |
|--|--|